

令和6年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党		
事 業 名	先進地視察	香川県	三豊市立 高瀬中学校夜間学級
事 業 区 分	① 研究研修	②調査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

令和7年度に市教育委員会が検討委員会を設置する現役の不登校生と中学校で学ぶことが出来なかったが方々、外国籍の方々のための信州オープンドアスクールについて、同じ取り組みを全国初で行っている香川県三豊市立高瀬中学校夜間学級を視察し、当市の取り組みへの提案などに活かす。

2 実施概要

実施日時		視察先	香川県三豊市立高瀬中学校夜間学級																					
令和7年1月28日（火）16:30～		担当部局	高瀬中学校、三豊市教育委員会学校教育課																					
報 告 内 容	1 市の概要																							
	人口：58,458人、世帯数：23,325世帯、面積は222.7km ² 。平成18年1月1日旧三豊郡7町が合併し三豊市が誕生。香川県の西部に位置する三豊市は、北は瀬戸内海、南は徳島県に接しており、海・山・田園地帯を有する地域にある。財政力指数0.42																							
	2 市の特徴																							
	日本のウユニ塩湖と呼ばれる「父母ヶ浜」や桜の名所「紫雲出山」で知られ、その絶景は観光スポットとなっている。果物の栽培が盛んで、春はいちごやびわ、夏は桃、ぶどう、マンゴー、秋は柿や栗に梨、冬はキウイ、みかんなど、年中さまざまなフルーツが収穫できる。																							
	3 視察事項																							
	全国初の学びの多様化学校を合わせた公立夜間中学の取り組み																							
	(1)設置の背景：																							
	義務教育未修了者が思いのほか多かったことで、市長に強い思いから文部科学省の都道府県に最低1校夜間中学を設置する事について香川県では、三豊市が設置に手を上げた。																							
	義務教育未修了者数（令和2年国勢調査結果）																							
	<table><tr><td></td><td>小学校が最終学歴の者</td><td>未就学者</td><td></td></tr><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>A+B</td></tr><tr><td>三豊市</td><td>670</td><td>42</td><td>712</td></tr><tr><td>香川県</td><td>6,688</td><td>459</td><td>7,147</td></tr><tr><td>全国</td><td>804,293</td><td>94,455</td><td>898,748</td></tr></table>					小学校が最終学歴の者	未就学者			A	B	A+B	三豊市	670	42	712	香川県	6,688	459	7,147	全国	804,293	94,455	898,748
		小学校が最終学歴の者	未就学者																					
	A	B	A+B																					
三豊市	670	42	712																					
香川県	6,688	459	7,147																					
全国	804,293	94,455	898,748																					
(2)設置までの流れ																								
令和2年3月 令和2年度施政方針																								
令和2年11月～12月 ニーズ調査																								
令和3年3月～8月 三豊市における公立中学校夜間学級の在り方検討委員会(4回)																								
令和3年10月 三豊市公立中学校夜間学級設置基本方針策定																								
令和3年11月～12月 入学希望者説明会(5回)																								
令和3年11月 三豊市 夜間中学シンポジウム																								

令和4月1月 入学希望者面接

令和4年2月 三豊市における夜間中学協議会

令和4年3月 入学説明会

令和4年4月14日 開設式 入学式

予算決算 令和4年度 約320万円(内1/3国庫補助) 令和6年度 約230万円(内1/3国庫補助)

(3)入学選考に関して

必ず1か月単位での体験入学をしてもらう、本人の希望を確認、その後、体験入学は2か月、3か月でも可能。

保護者の希望ではなく、必ず本人の希望を優先、ただし、学校まで通学は保護者の協力が必要。
(市長は、ニーズ調査からたとえ1人でもいるのであれば、三豊市で夜間中学を開設したかったと)

(4)学校運営

教職員16名、校長(兼務)、教頭、常勤5名、非常勤7名、半日勤務2名(養護教諭、学校事務)

その他、スクールソーシャルワーカー、夜間学級サポーター、スクールカウンセラー

教育委員会から、夜間中学は夜間学級ではなく分校にすると副校長を配置できる。

生徒1人1人に向き合う教育は非常に重要となる、市予算としてスクールソーシャルワーカー、

(5)特徴的な取り組み

①クラス編成・・学年生をとっていない

コース別学習にすることで、教員が個々の生徒の学力等の達成目標を明確にでき、教えやすくなる。

日本語コースの生徒はのびのびコースに入る。

(現在外国籍2名、1時間取り出しで日本語教室がある)

②卒業は3年にこだわらない・・令和6年度(令和7年3月卒業)の3年生の進路希望内訳

卒業希望7名(進学3名(うち現役2名)、就職1名、卒業(仕事に戻る)3名)

原級留置2名・・本人の希望で続けて学べる。

休学1名

③定時制高校との交流と職業支援

地元の多度津高校定時制の生徒と毎年双方の学校を交代で訪問し交流

定時制高校で高校体験と職業支援を目的に高校(職業科)の授業体験を行う

お仕事体験セミナー 県内専門学校(コンピュータと動物愛護)、サポステから説明会

④市長の強い思い

「学校にいけない生徒は、行政が支援しなければならない」

教員の加配について、直接、県教委にかけあってきた。

4、感想

山下市長自らが地方議員の視察に説明と授業見学に立ち会って頂いたことに感激し、夜間中学に対する強い思いを感じた。

昼間の中学校の音楽準備室を改装し教室としたことで、体育館や理科室は従来の中学校施設を利用できることと、入学時と卒業時を区切らないあくまで生徒本位の姿勢が素晴らしい。

5、上田市に活かす

三豊市教育委員会からは、夜間中学は夜間学級ではなく分校にすると副校長を配置できること、

生徒1人1人に向き合う教育は非常に重要となる、市予算としてスクールソーシャルワーカー等が必要となることと、現在も政策アドバイザーを依頼し、様々な相談をしている。

などの説明から、令和9年度開設を目指す、上田市信州オープンダースクールについて、今後の施設整備、教員配置など課題もあることから三豊市からアドバイスをもらう事など提案する。



市長、校長、三豊市教育委員会の皆さんと

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと